

緑友 だより

NO. 44

54/8

全国印刷緑友会機関誌

東京都杉並区和田1-29-11 (社)日本印刷技術協会内
◇発行人=飯田範夫◇編集人=原 勝彦

第22回定期総会終わる 4月14日 岐 阜

第22回定期総会は、さる4月14日(土)、ぎふ印刷翠陽クラブのホストにより、長良川ホテルにおいて行なった。(詳細は議事録参照)。出席グループ26、93名で、円滑な運営により盛大かつスムーズに総会行事を終了した。なお、今期より飯田範夫君が新会長として統率して行くことになった。



岐阜総会記念写真(長良川ホテル)

第22回 定期総会議事録

日時 54年4月14日(出)

PM 2:30~4:10

場所 長良川ホテル(岐阜市長良川畔)

主管 ぎふ印刷翠陽クラブ

出席グループ 26グループ 93名

定刻 2時30分、司会者 伊藤孟君(ぎふ印刷翠陽クラブ)より本日の議長選出についての様な方法がよいか提案されましたが、満場一致にて司会者一任となり千代田印刷人新世会の筒井尚亮君が指名され議長席に着席、議事進行に入る。

議長

本日の総会は全国29グループの内26グループの参加を得ましたので本日の総会を承認致します。

第1号議案 入退会の件

退会申し出グループの件について作道会長より説明があり、佐賀印刷若楠会・上田印刷緑友会の2グループの退会に関し先の常任幹事会にて承認されておりますのでこれを認めます。

入会グループの件について作道会長より説明がありました。

札幌青年印刷人の会 36名

大分印刷若梅会 14名

別府印刷青年部 16名

札幌青年印刷人の会は、昭和47年以降休会となっておりましたが53年10月沖縄大会にオブザーバーとして2名参加され今回正式に入会を申し込まれこれを常任幹事会にて承認致しました。これで北は北海道から南は沖縄までと云う表現がここに使える様になった事を非常にうれしく思います。

大分印刷若梅会は先の常任幹事にて、ほぼ入会の態度を決めておられましたのでこの総会にて正式に入会を承認されました。

札幌青年印刷人の会

竹内一博君より入会挨拶。

大分印刷若梅会

高山泰四郎君より入会挨拶があり、約3年程

前より経営者の二世を集め、現在13名にて構成されています。オブザーバーとして3回程参加させて頂いておりましたが先の京都大会に於て、作道会長にお会いし正式に入会を勧められ今回緑友の仲間としておつき合いさせて頂く事になりました。今後共よろしく御指導の程御願致します。

第2号議案 昭和53年度(21期)事業報告

渡辺守将君(北九州YPクラブ)より別紙経過報告書にもとづいて説明がありました。

第3号議案 昭和53年度(21期)決算報告

井上雅巨(神戸印刷若人会)より別項決算報告書にもとづいて説明がなされました。

第4号議案 昭和53年度(21期)会計監査報告

渋谷徹夫君(新潟印刷新世会)より、54年2月23日の京都セミナーの前に帳簿及び領収書等拝見致しました処何ら問題なく記載されている事を監査報告致します。

第5号議案 役員改選

作道現会長より長野青年印刷人緑友会飯田範夫君が次期会長に推選されこれを参加者全員拍手にて承認。

54年4月14日 PM 3時10分 ここに新会長が誕生しました。

新会長 飯田範夫君挨拶

総会スナップ写真



ただ単なる親睦の会としてではなく互いの情報を交換し勉強にいそむ会として、緑友会を発展させていこう、この組織を通じて各地が交流し多くの人達と接触出来るのは意義深い事だその意味からも、未加入のグループにどんどん入会を働きかけていきたい。

前会長作道亮雄君退任挨拶
飯田新会長より役員を紹介
(別項参照)

第6号議案 昭和54年度(22期)事業計画

飯田範夫会長より第22期事業計画が発表された。

総会 54年4月14日 ぎふ印刷翠陽クラブ
大会 54年9月22～23日 北九州Y Pクラブ
セミナー 55年3月 神戸印刷若人会
グループ長会議 54年5月～6月予定
常任幹事会 54年8月、11月
北九州大会について渡辺守将君より日程の説明
日時 昭和54年9月22～23日
場所 ホテルニュー田川
テーマ “緑友 今 語らいの時”
大会式典 54年9月22日 12時30分
記念講演 宮崎講平
松田憲一

第7号議案 次期総会開催地決定の件

次期総会開催地の件について新会長より東京プロセス製版青樹会が指名されこれを了承。

第8号議案 その他

中村守利君より緑友20年史が大変遅れている

が、ようやく見通しが出来ました。大きさはA 5 P 344で、5月中には各グループへ発送出来る様手配して居りますのでよろしく御願います。

閉会の辞

以上で議事審議を終了 16時10分

常任幹事

個人指名

中村守利(印刷同友会)、新村敏明(千代田印刷新世会)、竹田光宏(名古屋而立会)、作道亮雄(大阪青年印刷人クラブ)

グループ指名

ぎふ印刷翠陽クラブ、神戸印刷若人会、北九州Y Pクラブ、福岡若葉会、茨城緑友会、新潟印刷新世会、神奈川正和会、沖縄青年印刷人若潮会

会計幹事

小林 直(印刷同友会)

会計監査

田中 肇(東京プロセス製版青樹会)
山川 章(福島彩友会)

緑友だより担当

名古屋而立会



昭和53年度決算報告書

(昭和53年4月1日～昭和54年3月31日)

収入の部

科 目	金 額	摘 要
前期繰越金	587,701円	
会費収入	1,504,800	
名簿代金	1,275,000	
受取利息	26,851	
雑収入	52,000	
合 計	3,446,352	

支出の部

科 目	金 額	摘 要
総会補助	150,000円	神奈川
大会補助	300,000	沖 縄
セミナー補助	100,000	大 阪
緑友だより	189,650	2回発行
会議費	197,128	常任幹事会3回
慶弔費	100,000	
印刷費	26,650	
通信費	21,150	
会長出張費	150,000	
名簿作成費	996,750	発送費含む
雑 費	46,530	
合 計	2,277,858	
繰越基金	540,000	
次期繰越金	628,494	
計	3,446,352	

昭和54年度予算(案)

(昭和54年4月1日～昭和55年3月31日)

収入の部

科 目	金 額	摘 要
前期繰越金	628,494円	
会費収入	1,508,400	28G 977名
合 計	2,136,894	

支出の部

科 目	金 額	摘 要
総会補助	200,000円	
大会補助	300,000	
セミナー補助	150,000	
緑友だより	180,000	
会議費	250,000	
事務費	50,000	
慶弔費	50,000	
印刷費	50,000	
通信費	30,000	
会長出張費	150,000	
予備費及繰越予定額	726,894	繰越基金 540,000
合 計	2,136,894	

問題意識をもち 絶えず学び続ける態度を！

飯田 範 夫
(会長)



全国印刷緑友会の皆さん、いよいよ暑さも本格化してまいります、お元気でご活躍のことと思います。

緑友会の行事もこれからが本番となり、9月におこなわれます北九州での大会には、全国より多くの皆さんのご参集をお願い申し上げます。

これまで第1次石油危機から6年、長い不況がつづいてきましたが、今年にはいり経済もようやく回復基調にのったといわれておりますが、先ごろの石油輸出国機構(OPEC)の原油価格の大巾引き上げで、石油を食って生きているような日本経済に、20ドル石油が大きな影響を与えることは確か、物価の上昇の加速、経済活動へのブレーキという、インフレ、デフレ両面からの衝撃が、どのような形態で我々に対して出てくるか、見方によってはより深刻な第2次石油危機ともなりかねず、我々の業界の前途も一層むずかしさを増し、厳しい環境が待ち受けていると思います。

このような繁雑混とんとした情勢下で、若い印刷人の集団である緑友会も、その運動展開に多少のむずかしさは出てくるものと思

いますが、ある意味でこれからの情勢は我々に課せられた試練の時ともいえ、このような時こそ話し合いの場が必要であり、心と心のふれ合い、互いの信頼が大切になろうかと思

ます。そして目標をもち、計画を立てる、短い時間を有効に使う、つねに問題意識をもつ、たえず学び続けることにより自分の有用性を高める——こんな言い古された言葉がなにか新しいものとして感ぜられ、もう一度これを考えてみる時代ではないでしょうか。

緑友会が今後より楽しく、意義あるものへと発展してゆくため、会員の皆さんが研鑽をつまれ、英智と行動力を結集し成果を挙げられることができますよう、一層のご協力を念願する次第です。

(写真は岐阜総会でのもの)

新 グ ル ー プ 紹 介

全国印刷緑友会に入会にあたり

別府印刷組合青年部会会長 有 田 友 也

全国印刷緑友会のみなさん、現今の厳しい情勢のなかで日夜お仕事にご活躍のことと思います。このほど、みなさん方のお仲間に加えていただくことになりました、私ども「別府印刷組合青年部会」は結成以来ようやく6年目を迎えた日の浅いグループですが、会員相互の協力により、今後ますます充実した集いにしたいと思っておりますので、よろしくご指導下さるようお願いいたします。

私ども「別府印刷組合青年部会」の紹介をとのことですので、まずグループ結成のいきさつからお話いたします。みなさん方ご承知のように別府市は観光を生命とする消費型の町であり、大きな工業などはありません。私どもの印刷業も同様で2、3の会社を除くとほとんどが家族が主力となる小規模業者が多いのです。しかし、当市には13社が所属する「別府印刷組合」があり、その団結力は県下でも屈指のものとして高く評価され業界の発展向上に寄与しています。従前には青年部もあり、西日本印刷人大会を開くなど大いに活動していましたが、会員の高令化による減少で自然消滅していました。48年10月、組合のすすめと、幸いそのころになると各社の二世も成長し、家業に従事する人が増えていましたので青年部会を結成しようとの気運が高まり、各社に呼びかけました。初めての集りには9社が参加し、今後どのような運営をするかを話し合った結果、あまり大きな目標はかけず、同じ業界に働く者として気楽な付き合いのできる会にしようとして「会員相互の親睦」を第一とし、とにかく毎月1回（8日）に夕食を共にして話し合いをすることになりました。以来、毎月欠かさず会合がもたれ、現在

では13社16人を会員とし、月例会の出席率は100パーセントに近い状況であります。

つぎに私どもの活動状況をお話いたします。まず月例会につきましては、発会時の主旨である「会員相互の親睦」という意味から固ぐるしいテーマなどは決めず、夕食を共にしながらバカ話に終始したり、仕事面の悩みを話し合ったり、時には講師を招いてお話を聞くといった自由な会合形式をとっています。2年ほど前、せっかく月に1度集まるのだからもっと意義のある勉強会にしてはとの意見が出され、みんなで話し合った結果、あまり固ぐるしくなると出席意欲を損うとの意見が多く、現在でも従前通りの形式でやっております。年間行事では4月の温泉まつりに参加、揃いのハッピーをつくり、「おみこし」をかついでおります。重いおみこしをかつぐことは大変つかれることですが、終ってみると、みんなで力を合わせてやったという充実感から仲間意識というか、連帯感が生まれ年1回の楽しみとなっております。楽しみといえれば毎年行なっております研修（慰安）旅行もその1つです。展示会見学、製紙工場見学等かね1泊だけの短い旅行ではありますが、見知らぬ土地で過ごす一夜はまた格別で、会員相互の親睦に大いに役立っております。

また軟式野球チーム「プリンターズ」を結成、最初はエラー続出、貧打・拙攻の極弱チームでしたが、現在ではかなりいい線を行くまとなったものになりました。県印工の主催するソフトボール大会では2年連続優勝を果たし、私ども青年部会の団結力を発揮いたしました。その他こまごまとした活動状況は後日に譲ることにし、最後に会員の紹介をさせていただきます。

◎いづみ印刷（大段義行）◎大野印刷（大野修二）◎共同印刷（後藤明文）◎興栄社（安部節夫）◎サンエス印刷（佐藤干城）◎東洋印刷（伊藤健次・高野秀雄）◎日新印刷（野口雄一郎）◎日の丸印刷（中尾寿孝・中尾範章・中尾友蔵）◎博文社（宇都宮昭二）◎東九州印刷（有田友也）◎ふたば印刷（山本普詳）◎別府印刷（加藤昭彦）◎みつば印刷（末広博美）。

以上で当グループのあらましを説明いたしましたが、拙文で意をつくすことができなかつたことをおわびいたします。おわりになりましたが、エネルギー危機が叫ばれ、今後の情勢は厳しいものがありますが、みなさん方の一層のご発展をお祈りいたします。

（有 田）

全国印刷緑友会の入会ご挨拶

大分印刷若梅会会長 高山 泰四郎

大分印刷若梅会は、昭和54年4月14日、岐阜市で開催された全国印刷緑友会の第22定期総会に於て、正式に緑友会へ入会させて頂くことになりました。今後は緑友会の会則に従い、緑友会の名に恥じないよう、若梅会全員一丸となり、魅力ある会づくりに励みたいと決意を新たにしているところです。

しかしながら当会は、発足して間もないため、組織編成も不十分であるし、会員も他会に比べると少なく、今後、緑友会の皆様方から修得するところは大きくあります。今後とも大分印刷若梅会に対しまして、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

さてこの機会をお借りしまして、大分印刷若梅会の設立までの歩みと活動状況につきまして若干触れ、緑友会の皆様方に当会に対しましてのご認識を深めて頂けたらと思います。

大分印刷若梅会の前身は、大分県印刷工業組合大分支部青年部として昭和51年8月に発足されました。設立後の主な活動としては、講習会、セミナー、勉強会或いはゴルフコンペ、新年会等で月1回実施してきました。しかし2年経過した頃から、例会出席率が低下し目立った活動もなくなり、青年部全体がマンネリ化の傾向を示し始めました。そこで昭和53年6月、青年部再編成の話が持ち上がり、会員の再確認及び規約の制定、青年部の在り方について協議された結果、7月の例会で、名称を「大分印刷若梅会」と

改め、再出発することになった訳であります。

ところで、前青年部と若梅会とは次のような相違点があります。まず第1に役職を明確化し、5委員会（組織、料金、情報、広報、労務）を設置した事。第2に例会出席率を高めるため、罰金制を導入した事。第3に連絡網を徹底した事。以上のような改正により、会の運営もスムーズに進行し始めたし、会員の自覚も非常に高まってきました。

次に、若梅会設立後から現在までの活動状況を報告致します。現在、当会は、月2回、7日と21日を例会日と定め、会員14名で、研修会或いは親睦会等を実施しています。過去実施された行事の中では、昨年9月印刷週間の時に、便箋を作成して、街頭で無料配布を実施した事、今年の2月大分市内の全印刷業者を対象に、業界全体の問題点探求のための印刷業界実態アンケート調査を実施した事などが大変有意義な企画でした。又親睦会としてはソフトボール、ボーリング、ゴルフ、座禅等多くの活動を実施してきました。その他、今年の5月から、5年間を目標に毎月積立も行なっています。今後も、会員相互の利益追求のために、多くの企画を考え、実行していく予定です。

以上、当会のこれまでの活動状況について説明してきましたが、今後当会としては、県内だけを活動範囲とするのではなく、もっと中央の流れに目を向けて、技術面、営業面等について

大いに吸収を図りたいと思います。そのためにも今回の緑友会への入会は、大分印刷若梅会にと

りまして大変意義深い事だと会員一同、感謝しています。今後とも宜しく願い申し上げます。

緑友会加入に際し

札幌青年印刷人の会会長 竹内 一博

第22回全国印刷緑友会の定期総会において、札幌青年印刷人の会は正式に加入の承認を受け、今後活動を共にすることになりました。我々は10数年前には、緑友会に加入し、昭和43年には札幌において、総会を開催したという歴史と経過があります。その後会の活動が停滞し、休会同然の状態でした。このような状況下、私が発起人代表となり、札幌における、二世経営者の集まりを作り、ユニークな発想のもとに、種々の研究会、座談会、講演会等を開催し、相互の親睦は勿論のこと、将来を担う若き経営者の研鑽を主旨に、案内を差し出したところ、予想以上の会員数を集めることができ、昭和52年8月、札幌青年印刷人の会として正式に発足、設立いたしました。毎月の例会において当番幹事が、必ず議題を持ち寄り、意見を交し、熱が入ると4時間位にもなった時もありました。平均年齢が30才を割っているというように、本当に若い連中ですので、勉強をしようという意識は特別に高く、酒抜きでの例会を7割以上も続けてまいりました。ある時は税理士を呼び、又ある時は弁護士を講師に、といったように我が業界を外から見て、批判していただける方々のお話も非常に意義あるものであり、内にあるは、紙の販売店との座談会、製本業界との情報交換等々、約2年間の活動を顧ると、本当に会を作ったよかったですという気持ち、今後、持続性のある、そして魅力ある会づくりをどのようにしていくか、多くの問題があろうかと存じます。

前会長の作道亮雄氏との交際は、昨年のお阪での文化典以来ですが、彼の緑友の仲間を増員していくのだという信念と、緑友の性格目的を知ってもらいたいという熱心なる勧誘を受け、

そして又札幌までお越しいただき、例会の姿をつぶさに見てもらいながら札幌の活動等にご助言等を賜りました。

徐々に緑友会加入の気運が盛り上りを見せていきました。

私は基本的には緑友会に入会したからと言って、他のクラブと同じような運営をすることもなし、又模倣することもないと考えています。札幌は札幌のもつ独特の行動、活動をしながら、緑友会という大きな組織に乗り、相互グループの連けいを果しつつ、食欲に緑友会の良き点を吸収しつつ、各会員が成長、進歩してもらうことが最大の目的です。地元において、地味ながら、たしかな歩みをしたものと思っております。月1回の例会を通し、若き会員が自分自身の血となる、肉となる意義ある、魅力に富んだ会づくりに邁進いたしたく存じております。岐阜における定時総会に参加し、岐阜翠陽クラブの力強さ、熱意、そして親味なる歓迎を受け、大変うれしく思っております。ごく自然に、又気張りがなく、毎月の例回の延長でもあるかのごとく、さらりとやっけてのけるクラブの面々に深く敬意を表するものです。我々札幌も、このように行動がストレートに出せる会にいたしたく考えます。

何はともあれ、会に入会したからには、先輩クラブのような素晴らしい会運営には、まだまだ時間が掛かるものと存じますが、目標を大きく持ち、全国緑友会の綱領を忘れることなく、牛歩のごとく、確実な歩みをいたしたく考えております。

今後とも全国の緑友の皆様、よろしくご指導、ご鞭撻のほどひとえにお願い申しあげ、入会のごあいさつといたします。